

平成 28 年度定期総会
開催報告

6月18日(土)に「マリーンゲート塩釜」にて、みやぎ街道交流会平成28年度定期総会を開催しました。また、引き続き「設立10周年記念交流会 in 寒風沢」も開催しています。

開会の挨拶 / 会長 白鳥 良一

本日は定期総会にご出席頂き、ありがとうございます。

平成19年に誕生したみやぎ街道交流会は、今年10年目という節目の年を迎えました。喜びを共にしたいと思います。

小さな任意団体であるこの会が、10年間活発に活動してこられたのは、会員の皆さんの主体的かつ積極的な会への参画の結果であることは言うまでもありませんが、加えて盤石な事務局体制があったからこそではないかと思っています。

毎年、総会前にしっかりとした計画を立て、それを実行し、結果に対して厳しい自己点検を行い、計画を改善してまた実行していく、といったやり方を繰り返しています。これはISOが採用している、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)のサイクルで事業活動などを円滑に向上させる卓越した手法をそのまま実践しているように見えます。そのうえ、その都度すばらしい実践記録を作成し、紙媒体とウェブページに公開しており、このような周到で高いレベルの事務局を持った団体は他にあまりないのではないかと、誇りに思っています。

とりわけ、年次総会や交流大会などで配られる資料は、いつも配慮の行き届いたスキルの高さが伺えるすばらしいものです。事務局長はじめ事務局の皆さんには、この10年間のご苦勞に改めて心から敬意を表したいと思います。今後もこの調子で会を支えていただくようお願いします。

一方、この10年を振り返ってみますと、会員は少しずつ増えてはいるものの、若い会員や女性の会員の入会はあまり芳しくなく、会の継続性の観点からは課題を残していると言えます。

また、事業内容などにつきましても、まだまだブラッシュアップしていかねばならない点もたくさんあるように思えます。

この節目の年にあたり、今後の10年を見据えてこの会がさらに発展するようみんなで知恵を出し合って行きたいと思っていますので、よろしく願いいたします。



みやぎ街道交流会

題字：高倉 淳初代会長 揮毫

【今回の目次】

- 平成28年度総会開催報告
開会のあいさつ 会長 白鳥良一 P1
総会議事要旨 P2
- 「みやぎ街道交流会設立10周年記念
交流大会 in 寒風沢」ダイジェスト P3
~P4

【編集後記】

○遅くなりましたが、今年度最初のみやぎ街道交流会ニュースをお届け致します。
○熱闘甲子園も始まりましたが、今年はリオオリンピック2016も見逃せません。リオとの時差は12時間ですから、高校野球とは重なりませんが、寝不足も気にしながらのスポーツ観戦三昧でしょうか？夏バテにもご留意ください。(やま)

みやぎ
街道
交流会
ニュース
第34号

2016.8.8 発行

みやぎ街道交流会は、地域資源を生かした地域づくりを目ざして、平成 19 年 5 月 3 日に浦戸諸島（野々島・寒風沢島）で設立し、10 年目を迎えました。記念大会を江戸時代に港として栄えた発足の地・寒風沢島をテーマに開催し、3.11 津波の壊滅的な被災から復興を進める寒風沢島も訪ねました。



受付風景(会場入口)



会計の馬場さんの司会で進行



白鳥会長の開会あいさつ

I. 活動報告「みやぎ街道交流会 10 年のあゆみ」 [会場] マリーンゲート塩釜 3F「マリーンホール」



山屋事務局長から 10 年のあゆみとして

- ・東北地方の街道活動のあゆみ
- ・みやぎ街道交流会設立
- ・これまでの交流大会等の経緯
- ・調査・保存及び情報発信の活動
- ・各地団体等の活動支援

について報告がありました。

また、交流大会等の概要報告のパネルを会場の横壁に掲示しました。



II. 記念講演会

[参加者] 63 名 (スタッフ含み)

1) 「近世～近代の太平洋海運と寒風沢・石濱」



講師は、東北学院大学の斎藤善之教授にお願いしました。

【講師プロフィール】

- 1958 年栃木県生まれ。1981 年宇都宮大学教育学部卒業。
1987 年早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程終了。日本福祉大学知多半島総合研究所嘱託研究員などを経て。現在、東北学院大学経営学部教授。専門/日本近世史、海運港湾史。
- NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク 副理事長。
 - NPO 法人 NPO みなとしほがま 古文書部会長。
 - みやぎ街道交流会顧問として、奥鹽地名集や川みちの歴史に関する講演をお願いしています。

【著書】『内海船と幕藩制市場の解体』（柏書房 ポテンティア叢書、1994 年）などの外に講演内容に関連して、『海の道、川の道』（山川出版社 日本史リブレット、2003 年）があり、江戸時代の回船研究の第一人者で、東北学院大学に着任以来、奥州地区の海運調査も進めています。

【講演概要】

寒風沢港は東北の重要港湾として海運史研究上、全国的にも著名な港であり、江戸時代から明治時代の寒風沢がどういった港であったかについて、浦戸村長などを務めた土井兼太郎の①「寒風沢港殷賑（いんしん）時代の懐古」（昭和 25 年頃執筆）により寒風沢港の概要を説明頂きました。また、土井の①を裏付ける資料として②「寒風沢御穀改所定」を、更に、③仙台藩の流通統制（②を民間資料で裏付けるため『五十集必用』【丹野六右衛門家旧蔵】）について説明頂きました。また、④忘れられた塩竈人として桂島石浜の白石廣造の事績の紹介もありました。

寒風沢港の繁栄した（殷賑）時代の出入船・米御蔵などの港湾関連施設や、御番所・役人、廻船問屋・宿など関係する人々の暮らしについて説明がありました。この中で、この島の集落は鰯淵水道に面した東浜にあったが、永禄年間（1558～1569）に大津波があり、現在の寒風沢水道に移転したということですが、今回 3.11 の大津波でも大きな被害を受けたことに複雑な思いがありました。

2) 「若宮丸のロシア漂流民と寒風沢出身の津田夫・左兵衛」



講師は、宮城学院女子大学の平川新学長にお願いしました。

【講師プロフィール】

1950年、福岡県生れ。1976年法政大学文学部史学科卒業、1980年東北大学大学院文学研究科修士課程修了。1996年5月東北大学東北アジア研究センター教授。2005年～2007年同大学同センター長。2012年東北大学防災科学国際研究所初代所長。2014年宮城学院女子大学学長、東北大学名誉教授で現在に至る。専門／日本近世政治経済史、歴史資料保全学。

➤NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事長。

➤みやぎ街道交流会顧問、関山街道フォーラム協議会会長を務め、度々講演をお願いしています。

【著書】『紛争と世論-近世民衆の政治参加』（東京大学出版会、1996年）、『近世日本の交通と地域経済』（清文堂出版、1997年）などの外に、講演内容に関連して、『開国への道』（小学館、2008年）で、漂流民から新選組まで、幕末期を生きた人々を通して、鎖国から開国へ、そして「徳川の国」から近代国家へ向かおうとする社会の変貌を新たな視点から描いています。

【講演概要】

若宮丸漂流民が見たアリューション～オホーツク～イルクーツクまでの様子やイルクーツクでの生活、ペテルブルグでロシア皇帝に謁見後に、大西洋～ホーン岬～太平洋を経て長崎に到着までを『環海異聞』などの絵図や現地調査時写真で説明がありました。長崎では、日本との貿易を求めるロシアと長崎奉行所の交渉状況とそれに翻弄される漂流民の様子を佐賀藩の記録や絵図などで、また帰郷後の様子も説明頂きました。

仙台藩では、大槻玄沢らが漂流民に事情聴取し、『環海異聞』を作成するなど日本のロシア研究に大きく貢献したそうです。その後には、ロシアが南下し北方が緊張して来たことから、津田夫、左兵衛は幕府若年寄堀田正敦に呼ばれて、ロシア情報の収集に協力し、幕府のロシア対策の参考になったとのこと。また、ロシアに残った石巻の善六が日露交渉で函館に登場というドラマチックな話も残っているそうです。

II. 海道談義

【会場】 浦戸東部漁協漁民センター（寒風沢島） 【参加者】 24名（地元参加者含む）



寒風沢島に上陸



漁民センターでの海道談義



松林寺住職外地元の2名も参加



海鮮料理と持寄った地酒

III. 寒風沢島探訪会

【参加者】 16名（スタッフ含む）



造艦の碑



御城米御蔵跡



日和山の十二支方角石



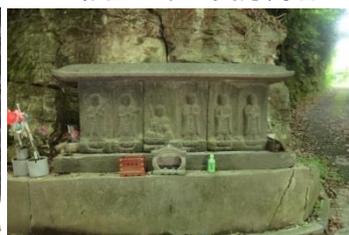
日和山のしばり地蔵



砲台跡



寒風沢明神社



寒風沢の六地蔵



松林寺の化粧地蔵

※「設立10周年記念交流会 in 寒風沢」について、この交流会ニュースでは、写真を中心としたダイジェスト版となっています。現在、講演内容を含んだ報告書を作成中です。